
モンスターハンター ～異世界から来た太陽～

Mt.KOBURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター

～異世界から来た太陽～

【Nコード】

N9619Y

【作者名】

M t . K O B U R A

【あらすじ】

成績優秀、運動神経抜群の主人公が仲間と一緒に狩りまくるほのぼの？ストーリーです！

第1話：嵐の前の静けさ（前書き）

こんばんは!!

夜だけど、初投稿でテンション上がりまくり→→→のKOBURAです！

今日が初投稿ですので駄文、文法が成り立っていないのであらかじめご了承ください

それでは、記念すべき第1話
始まり始まり！

第1話：嵐の前の静けさ

Hello!! 俺は七海紅葉!! キラッキラの中学生だ!

……はあゝ、たりいゝ

このテンションマジできつい…

分かる?俺超燃え尽きてんの。

だって、朝からこのテンションつて…

でも、一つだけ熱心に取り組めるゲームがあるんだ!!

その名を“モンスターハンターポータブル”

俺がこれまで、やってきたゲームの中でも特に面白い!!って俺が絶賛するくらい面白い!!

???「おい、紅葉ゝ!」

ちなみに今の声は俺の幼なじみでありながら、

モンハン仲間でもある“赤羽 栞”だ。

栞「紅葉!私やっとジンオウガ倒せたよ!!」

……朝からうるせえゝゝゝ(怒)

ちなみに今、会話にでたジンオウガってのは

モンハンに出てくる4足歩行で電気を操るモンスターね(誰に説明してんだ?俺!?)

…つかジンオウガなんてとつくに倒してるし…

栞「ねえ、紅葉、聞ってる!?!」

紅葉「ああ、聞ってる聞ってる?」

栞「何そのは「おい、おっふたゝりさゝん!」ん?あつ!!良と蓮」

今、会話にでた良と蓮も俺の幼なじみでモンハン仲間。

「ねえねえ、聞いて!!私やっとジンオウガ倒せたよ!!」

良「おお、よかったじゃん!!」

蓮「…遅くね？」

栞「むー！しょうがないじゃん！もともとああ

いうゲーム苦手だし！」

紅葉「…苦手ならやんなよ…」

栞「えー！だって、みんなと話が合わないの

嫌だし」

面倒くさい性格…

良「なーなー、そんなことよりさ、歩きながら

でいいから、モンハンやろうぜ！」

栞「あ！私も！私も！」

蓮「俺も！」

良「紅葉は？」

紅葉「やる…。」

こうして俺たちは学校に行くまでモンハンをやることになったんだけど……まさかあんなことになるのは今の俺たちじゃ予想すらつかなかった……

第1話・嵐の前の静けさ（後書き）

どうでしょうか！？

ご感想などお待ちしております。

第2話：謎の黒い穴（前書き）

こんばんは～

テンション高いうちに2話目投稿です。

まあ、こんなにテンションが高いのは、今日でテストが終了だから
（こんなときに勉強せずに執筆している私はダメ人間　テヘツ）

まあ、テストの話はこんくらいにして

それでは第2話　「謎の黒い穴」

始まり始まり～

第2話：謎の黒い穴

みんなで歩いて10分　やっと学校が見えてきた
グレーの校舎　校庭には朝練が終わって燃え尽きている生徒たち
あれが俺たちの通っている私立名秋学園（ちなみに県内で一番頭の
いい学校だって　自慢じゃねえぞ^^）

さて、おそらく校門には…いた　源田だ…←←

あつ、源田っていうのは、生徒指導の先生で

名秋学園では生徒に一番嫌われている先生ね

（最近俺、誰に説明してんだ？）

紅葉「おい、お前ら　源田がいるから、そろそろ…」

俺が言いかけた瞬間、キイーンと耳鳴りのような音が聞こえてきた。

紅葉「なんだこの音？耳鳴り？」

良「紅葉、お前も聞こえんのか？」

紅葉「え！？お前も！？」

蓮「俺も聞こえるぞ」

栞「私も」

紅葉「周りの様子を見る限り、耳鳴りは俺たちだけみたいだな。」

良「ああ。でも、なんで…？」

良が言い終わった瞬間、耳鳴りが急に止まった…

蓮「あれ？止ま…」

その時、突然ギョオオオオオと変な音になった。

良「な、なんだこりや！？」

紅葉「（一体、どうなつてやがる…？）」

バコッ

容器を潰したような音が聞こえた瞬間、校門に突然黒い穴が出現した。

良「うわっ！！」

蓮「なんだ、ありゃ！？」

栞「ど、どうなってんの！？」

紅葉「周りの奴等は気づいてねえみたいだな……」

紅葉が言い終えたあと、突然4人の身体が光始めた良「なっ！？」

蓮「う、うわ！？」

栞「きゃあ！！なにこれ！？」

紅葉「まだ、誰も気づかねえのか！？」

そう、まだ誰も紅葉たちの異変には気づいていない。

その時、4人の身体が一際強い光を発した瞬間、突然4人の姿が消えてしまった。

しかし、そのことに気づくものは、誰1人としていなかった……。

第2話：謎の黒い穴（後書き）

どうでしたか？

感想などよろしく願います。

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？（前書き）

こんにちは

テストが、終わってウキウキルンルンの
Mt・KOBURAです！！

いや、テストって嫌ですね。
今年は高校受験なんで勉強やろうとは思ってんですけどね。
中々、上手くいきません

さて、それでは第3話「ジャギイの群れとドスジャギイ！！」
始まり始まり

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？

??? side

― 来たか…

― ……

― そのようで…

― さて、次の太陽はどれほど輝くものか…

― 楽しみですな…

??? side

― うん？ここはどこだ…？

??? 「…いつ、起き…」

― だ、誰だ…？

??? 「…いつ、起きろ…！」

― ……ちっ！うるせえなあ…！

??? 「おい、起き…ゲフツ…！」

良 side

俺が目を開けた時、目の前に広がった光景はなんとも言い難い光景だった。

良「な、なんだ…ここ？」

目の前に広がるのは新緑の森、悠久の崖、小鳥のさえずり、遠くから聞こえる何かの咆哮

良「ど、どうなってんだ!？」

確かにさっきは、学校の通学路で4人とモンハンしながら、歩いてた筈…!？」

良「そ、そうだ!!みんなは!？」

周りを見ると、3人ともすぐ近くにいた　よかった…

良「おいっ!？みんな大丈夫か!？」

紅葉「うう…」

良「紅葉!？おいっ!!大丈夫か!？」

紅葉「うっ…うう…?」

良「おいっ!!起きろ!!」

良「おいっ!!起き「うるせえなあ!!」ゲフツ!!」

えっ!？なんで!？なんで殴られんの!？っ！か、顔!？しかもゲーパン!？」

紅葉「っ…なんだよ、耳元で怒鳴りやがって…」

良「いや、俺は起こそうと…」

蓮「うう…」

栞「う…ここは…?」

良「おおっ、二人とも気がつ「うつせえ!!」…」

なあ、俺キレていいよな　いいよね　だって、俺だけおかしいじゃん（涙）

紅葉「ん？何泣いてんの?」

良「うつせえ!!…うう」

なんで、俺だけ…　あっ、でもさすがの紅葉も心配くらいしてく…
紅葉「んなことより、ここ何処だ?」

うん、軽く受け流されたね…

栞「あれ、さっきまでゲームやってたのに…」

蓮「つーか、バッグとかみんな無くなってるね？」

栞「あつ！ほんとだ！」

紅葉「まあ、んなもんでもいい　んなことより、ここは一体どこだつー話だ」

良「少なくとも、日本じゃねーよな」

栞「うん…うちの近くにもこんなところないよ」

紅葉「やっぱ、さっきの黒い穴が原因か…」

蓮「つーか、このまま、帰れんかったら、どうしよー」

さすが、蓮だな　意味わかんないことに来ても全く動じてない

栞「もー、そんなこといわないで！ー」

蓮「あゝ、悪い、悪い」

紅葉「さて、それにしても…？」

良「どした？紅葉？」

紅葉「…歩くぞ…」

良「はあ？どうしてまた急に…」

紅葉「雨が降る」

栞「えっ！？ほんと！？」

紅葉「ああ…西の方角に雨雲が見える…」

そんなの、全然見えないんですけど…

「まあ、あと1時間くらいで降るからそれまでに人のいるところを見つめるか、洞窟でも探す…」

良「？どした？」

紅葉「なんか、足音が聞こえる…」

栞「えっ？そんなの聞こえないけど…」

紅葉「シッ…」

紅葉が人差し指を口の前にやる…

紅葉「ん？」

蓮「なんか、分かったの？」

紅葉「ああ、この足音は…人間じゃない？」

朶「えっ!？」

紅葉「なにか、二足歩行の生き物が50匹くらいしかも、かなり大きい…」

良「はあ？なんだよそれ？」

朶「ね、ねえ!!あれ!!」

朶が指を指したところを見ると確かに二足歩行で薄い紫の蜥蜴のような生き物が崖を上っているのが見えた

良「な、なんだ!？ありゃ!？」

蓮「これって…やばくね？」

朶「に、逃げようよ…」

紅葉「駄目だ!あれじゃすぐに追い付かれる」

朶「じゃあ、どうすれば？」

紅葉「…俺が…囷になる」

朶「な、何言ってるの!？」

良「正気か!!」

紅葉「俺は、至って、正気だ…それに、ここで4人とも全滅するより、一人が囷になって、残った奴等がこの先にある村かどこかでこのことを知れば、最終的に被害は少なくなる…」

良「だからって、お前が犠牲になることなんか!!」

朶「そうだよ!!一緒に逃げよう!!」

しかし、紅葉は崖下にいる蜥蜴から、目を離そうとしなかった

蓮「…任せて、いいんだな？」

朶「蓮!？」

紅葉「…ああ」

蓮「…分かった…」

良「おい蓮!!お前、仲間を見捨てんのか!!」

良が蓮の胸ぐらをつかむ

蓮「紅葉は間違ったことは言っていないし、おそらく紅葉なら、あの程度なら…」

良「？あの程度？どういうことだ！？」

蓮「……」

紅葉「いいから！」

紅葉が声を荒げて言う

紅葉「ここは、俺に任せろ……」

良「！？……っ！！」

栞「紅葉……」

蓮「……」

良「っ！……くそ！！必ず追い付けよ！！！」

栞「紅葉！あんなのに負けないでね」

蓮「任せたぞ」

みんな、紅葉の意見に納得したようだ

紅葉「ああ！！必ず追い付けく！！！」

紅葉が、言い終わって安堵したのか、みんな、一斉に蜥蜴が走っている道とは、反対の方向を駆ける

紅葉「……行っただか　さて、そろそろご到着かな」

紅葉のいった通り、紅葉の後ろには大勢の蜥蜴がいた

紅葉「ふっ！久しぶりの実戦か！前の実戦からは6年振り　腕が鈍っていなければいいが……」

紅葉が、言い終わった瞬間、群れの中でも一際大きい蜥蜴が突然鳴きだした

どうやら、紅葉を敵と判断したようだ

紅葉「ふっ！その程度の殺気か　他愛もない」

蜥蜴「ギャオッオウオ」

紅葉「さあ、行くぞ！！！」

紅葉と蜥蜴が動きだした

しかし、その間に入る影

???「ふふ♪少しは楽しませてくれるかな」

チャキッと刀を抜く音が聞こえた……

第3話：ジャギイの群れとドスジャギイ！？（後書き）

はい、第3話終了です

あつ、もちろん紅葉はまだ死にませんよ！

ていうか、ここで死んだらこの話もう、終わっちゃうってww

あつ、それと次回からはここにキャラクターのプロフィール載せていきますんでそこそこよろしくです。

では、感想など、お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9619y/>

モンスターハンター ～異世界から来た太陽～

2011年11月29日16時55分発行